

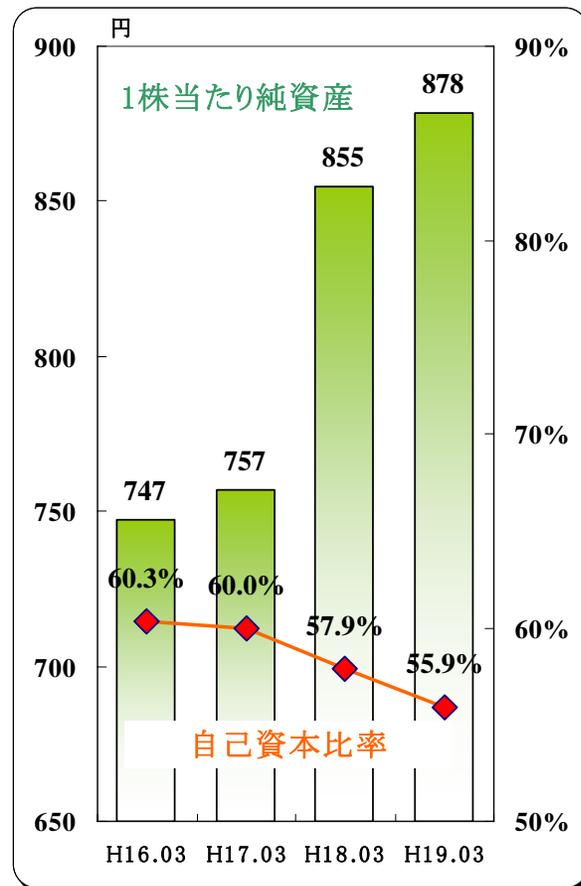
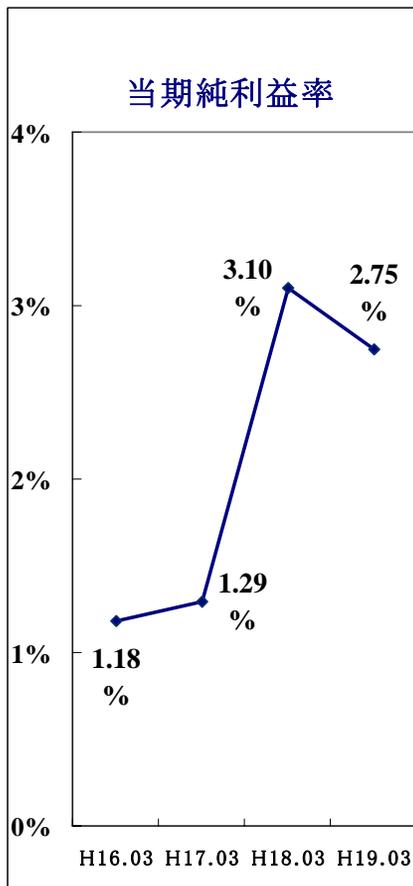
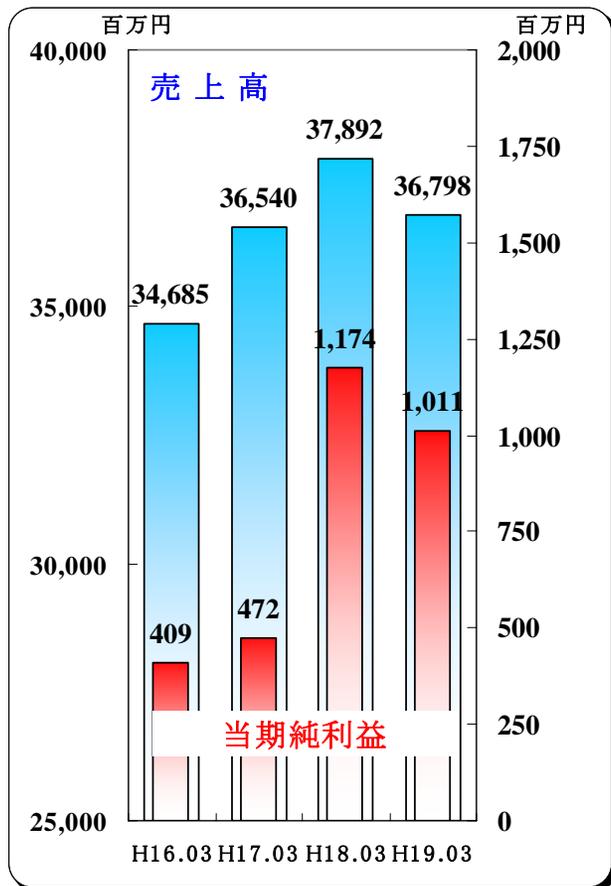
平成19年5月11日



平成19年3月期 決算説明資料

主な経営指標の推移

当社の特徴



売上高及び当期純利益・・・当期は減収・減益。高利益率製品売上増加に伴い利益率は改善傾向にあるが、当期は法人税等負担が発生したため減益となった。

安定した財務体質…………… 1株当たり純資産は増加傾向。自己資本比率は相対的に高い。

貸借対照表の主な増減(資産)

科 目	前事業年度末	当事業年度末	比 較	主な増減理由
流動資産				
現金及び預金	百万円 1,668	百万円 2,321	百万円 653	
受取手形	655	359	△295	
売掛金	12,326	12,826	500	期末日休日による影響
有価証券	—	444	444	1年以内償還予定による投資有価証券からの科目振替
棚卸資産	2,642	2,669	26	
繰延税金資産	125	65	△60	
その他	121	118	△3	
貸倒引当金	△24	△17	7	
固定資産				
有形固定資産				
建物	2,080	2,019	△61	
機械及び装置	1,007	932	△74	
土地	240	239	△0	
その他	306	329	23	
無形固定資産				
ソフトウェア	20	21	0	
ソフトウェア仮勘定	199	386	186	基幹システム開発に係る支出
その他	5	4	△0	
投資その他の資産				
投資有価証券	5,778	4,141	△1,636	
関係会社株式	—	2,095	2,095	香港子会社, フレパー・ネットワークス㈱
差入保証金	1,537	1,603	65	
その他	156	149	△7	
貸倒引当金	△72	△62	10	
資産合計	28,775	30,648	1,873	

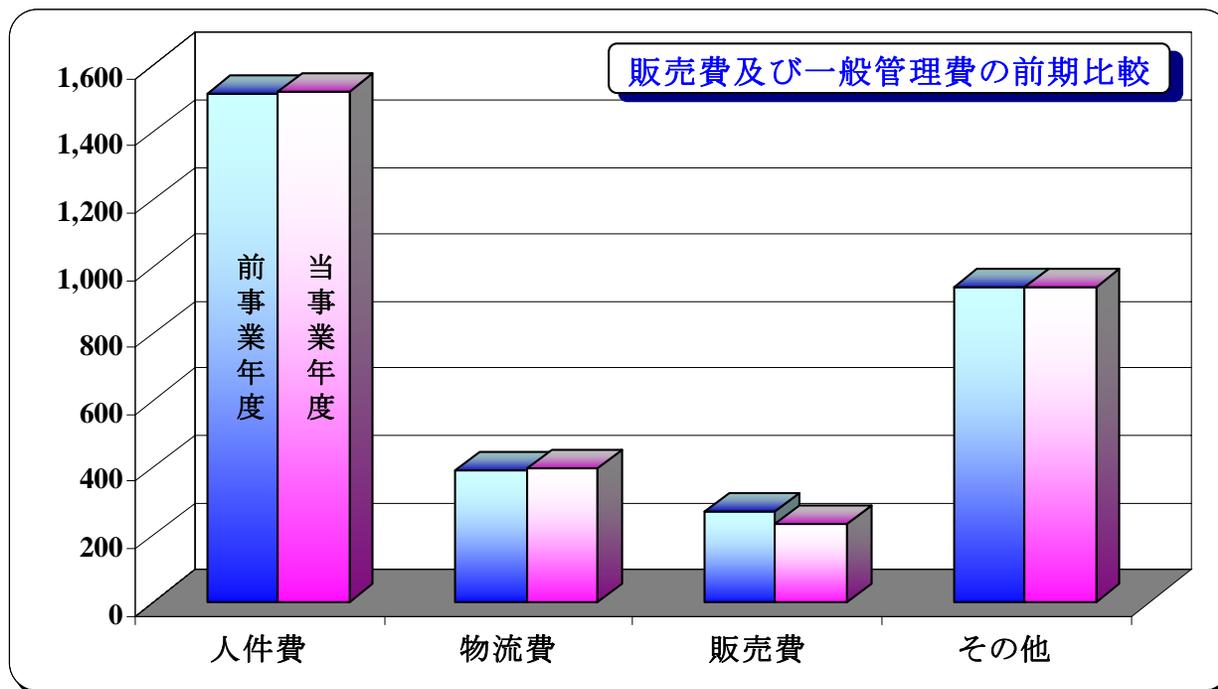
貸借対照表の主な増減(負債)

科目	前事業年度末	当事業年度末	比較	主な増減理由
流動負債	百万円	百万円	百万円	
支払手形	684	122	△562	支払方法の変更(手形→振込み)
買掛金	6,556	7,493	936	期末日休日による影響
1年以内長期借入金	387	550	162	
未払法人税等	40	538	497	繰越欠損金解消により課税所得が発生したため
賞与引当金	190	193	3	
設備関係支払手形	133	—	△133	
その他	579	696	116	
固定負債				
長期借入金	1,600	2,650	1,050	新規運転資金調達
退職給付引当金	679	567	△112	
役員退職慰労引当金	124	74	△49	
繰延税金負債	1,115	632	△482	
その他	9	9	0	
純資産				
資本金	5,115	5,115	—	
資本剰余金	4,886	4,886	—	
利益剰余金	4,816	5,632	816	
自己株式	△26	△32	△5	
その他有価証券評価差額金	1,882	1,518	△364	
繰延ヘッジ損益	—	0	0	
負債・純資産合計	28,775	30,648	1,873	

損益計算書の主な増減(1)

科 目	前事業年度	当事業年度	比 較	主な増減理由
	百万円	百万円	百万円	
売上高	37,892	36,798	△1,093	仕入販売(△598百万円) 製造販売(△495百万円)
売上原価	33,362	32,554	△807	
売上総利益	4,530	4,244	△286	
売上総利益率	11.9%	11.5%		製造販売の減少による利益率の低下
販売費及び一般管理費	3,116	3,091	△25	
営業利益	1,413	1,152	△260	
営業外収益	68	52	△15	
営業外費用	64	80	16	
経常利益	1,417	1,124	△292	
特別利益	26	251	224	外貨建投資有価証券の満期償還(239百万)
特別損失	255	26	△229	前期に減損損失173百万円計上
税引前当期純利益	1,188	1,350	161	
法人税、住民税及び事業税	21	521	500	繰越欠損金解消に伴う課税所得の発生及び繰延税金資産の積み増し
法人税等調整額	△7	△182	△175	
当期純利益	1,174	1,011	△162	

損益計算書の主な増減(2) 販売費及び一般管理費



人件費

新規採用による人員増加によるものであります。

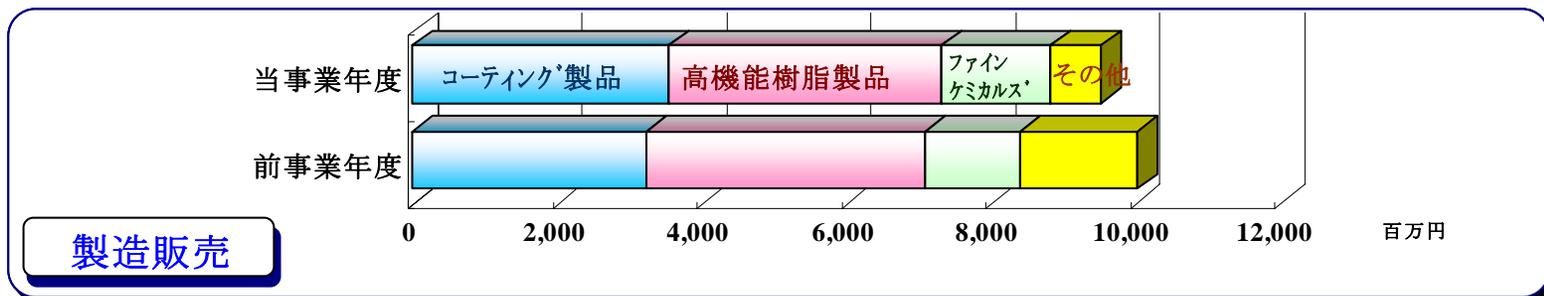
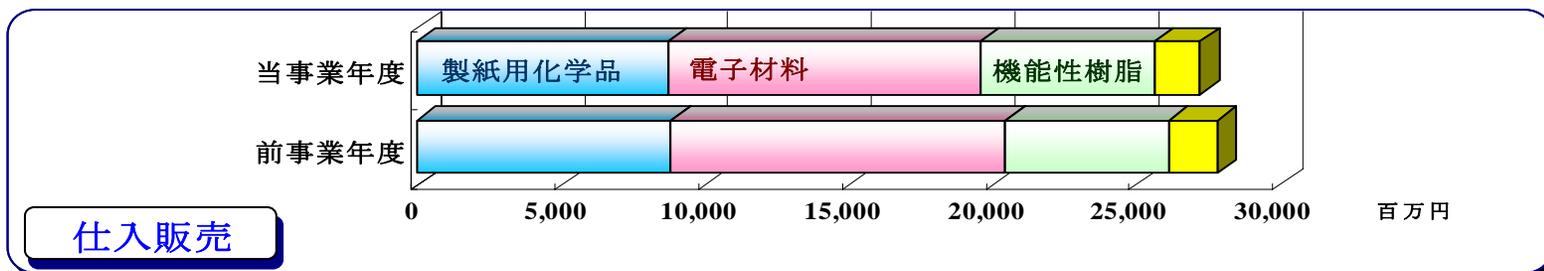
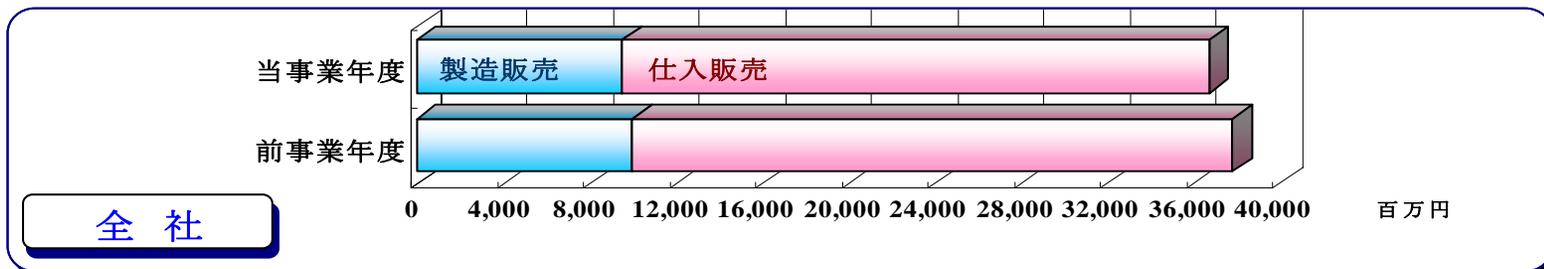
販売費

販売方法の変更（代理店販売→直接販売）による販売手数料の減少及び得意先への技術支援（ファインケミカルズ）を現地対応に変更し、旅費交通費が減少したことによるものであります。

キャッシュ・フロー計算書の主な増減

科目	前事業年度	当事業年度	比較	主な増減理由
	百万円	百万円	百万円	
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,031	1,752	720	
税引前当期純利益	1,188	1,350	161	
減価償却費	489	506	16	
減損損失	173	—	△173	
投資有価証券償還益	—	△239	△239	
売上債権の増加額	△1,225	△205	1,020	
棚卸資産の増加額	△502	△26	475	
仕入債務の増加額	876	374	△502	
その他	30	△7	△38	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,338	△2,111	△773	
有形固定資産の取得	△606	△499	106	
無形固定資産の取得	△73	△335	△262	基幹システム開発に係る支払
投資有価証券の償還による収入	—	351	351	外貨建投資有価証券の満期償還
投資有価証券の取得	△627	△10	617	
関係会社株式の取得	—	△1,616	△1,616	香港子会社、フレパー・ネットワークス(株)
その他	△31	△1	29	
財務活動によるキャッシュ・フロー	291	1,012	721	
長期借入金の返済	△550	△387	162	
長期借入による収入	1,050	1,600	550	
配当金の支払額	△194	△194	0	
その他	△13	△5	8	
現金・現金同等物の増減額	△15	653	668	

売上高の分析(1) 概要



高付加価値製品へ経営資源を投入し強靱な収益基盤を確立するため、ビジネス拡大とその強化として、電子部品業界向けの積極的な販売活動や、より高付加価値なコーティング製品の生産・販売に向けた生産設備を増強し、高機能フィルムの海外を中心とした需要の急増に対応したことや、高機能樹脂製品も自動車電装部品向けが堅調に推移し、それぞれ増収となりました。しかし、一部の製品で供給過剰による海外での在庫調整や価格競争激化の影響を受け大幅な減収となり、売上高は367億9千8百万円(前期比2.9%減)の減収となりました。

当社の主な製品 概要

コーティング製品



ソマタック® WA

工程用微粘着フィルムです。FPC・チップコンデンサー製造工程用バックアップフィルムとして利用されています。



ソマタック® TE

加熱剥離タイプの熱発泡粘着フィルムです。FPC・チップコンデンサー製造工程用バックアップフィルムとして利用されています。

高機能樹脂製品



エピフォーム® 電子部品用

各種電子部品に使用する樹脂です。



ソマコート® IRシリーズ

表面実装用の熱硬化型接着剤です。

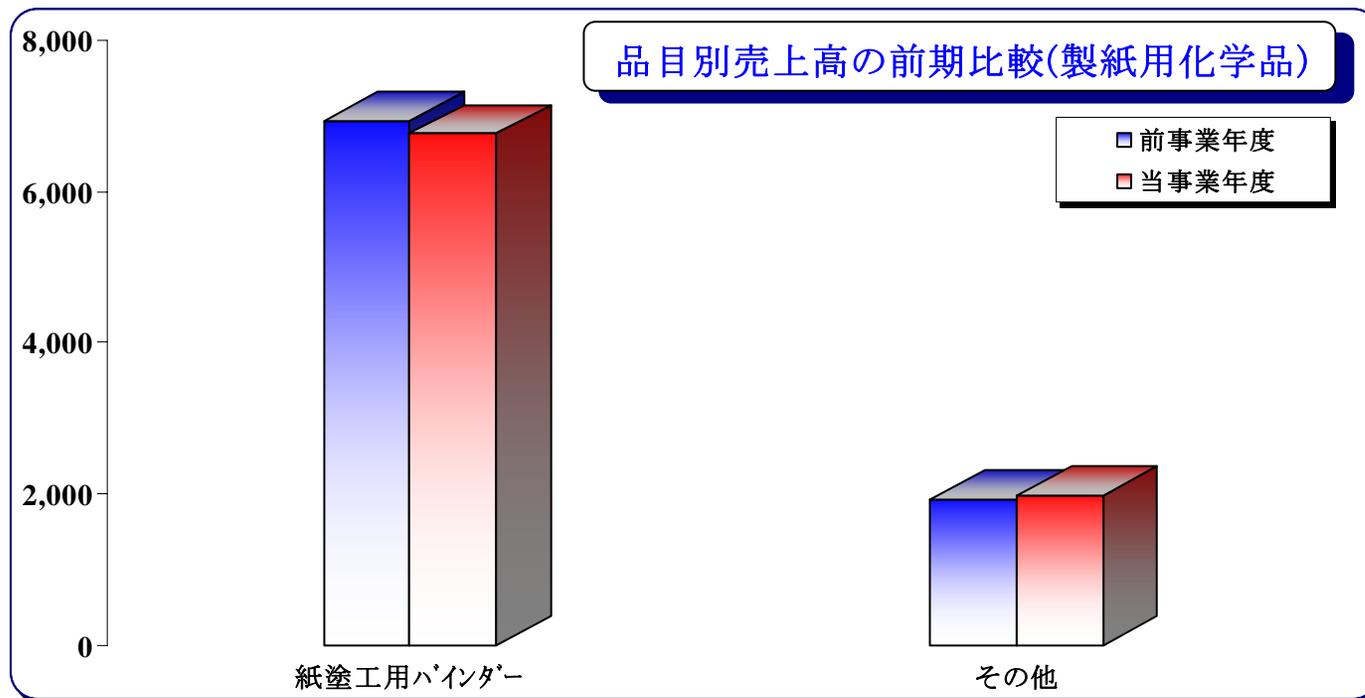
ファインケミカルズ



ソマレックス®

塗工カラーに添加することで保水性及び粘弾性の改善により、塗工紙物性の向上及び塗工操作性を改善する薬剤です。

売上高の分析(2) 仕入販売(製紙用化学品)



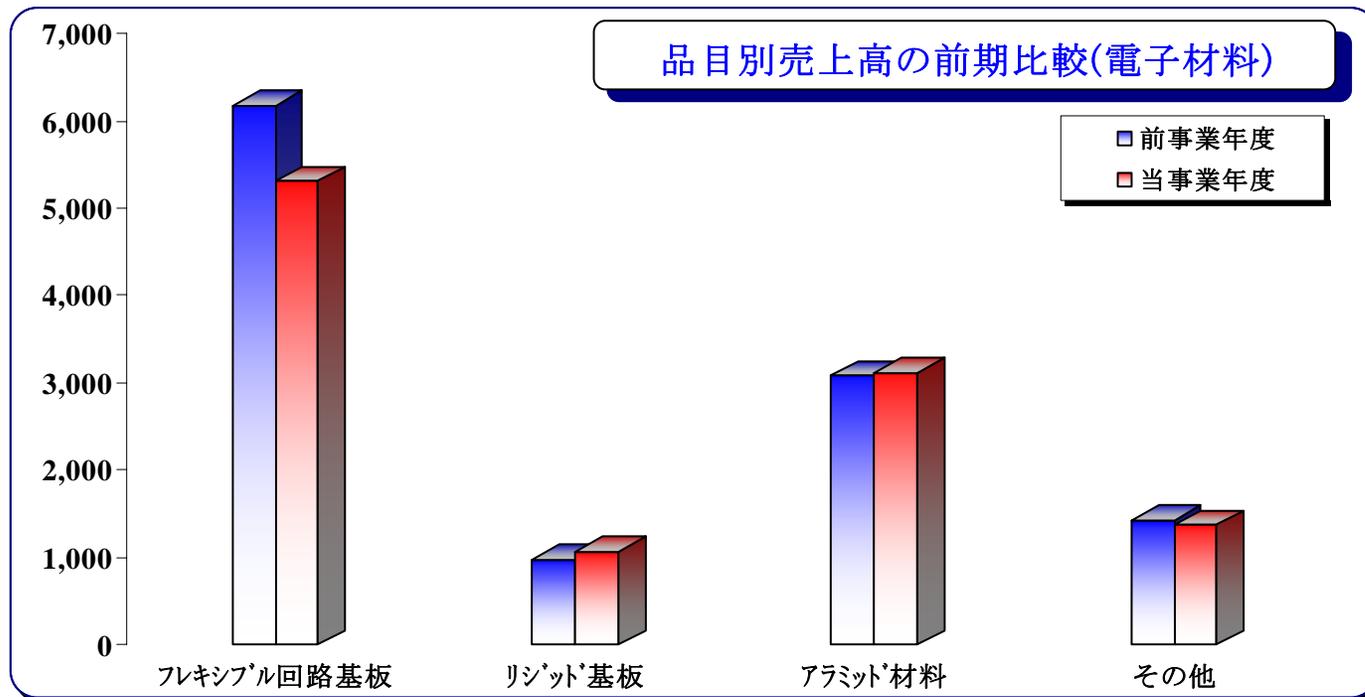
塗工用バインダー

販売価格の上昇があったものの、一部の顧客でシェアダウンがあったため減収となりました。

その他

紙塗工用バインダー以外の製紙用化学品が横ばいで推移しました。

売上高の分析(3) 仕入販売(電子材料)



フレキシブル回路基板

その主な用途である携帯電話やパソコン等のデジタル情報機器製品の生産調整に大きく影響を受け、年度後半からの大幅な在庫調整により減収となりました。また、プラズマテレビ向け電子材料は海外市場の大幅な在庫調整が入り減収となりました。

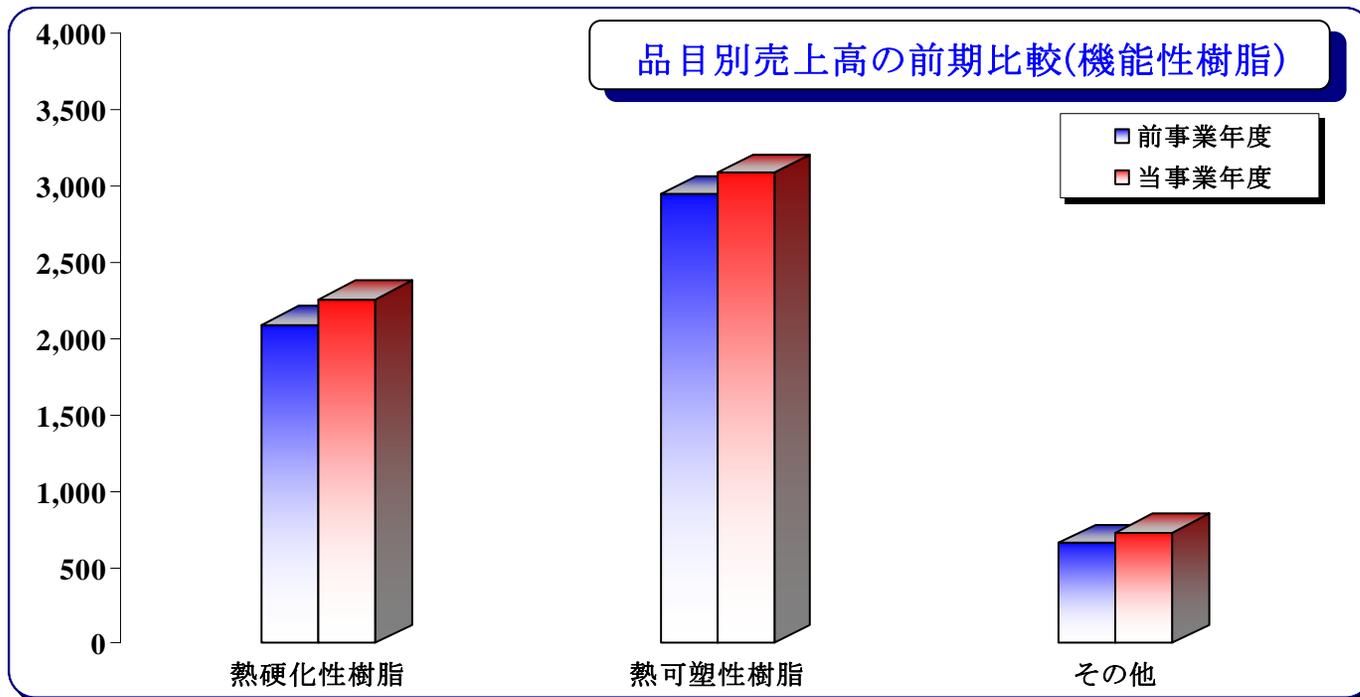
リジッド基板

一部の高付加価値品が国内で堅調に推移し増収となりました。

アラミッド材

各種駆動機器の小型化に伴う耐熱材料として広く採用されたため、家電、自動車、産業機器、車両、重電向けが堅調に推移し微増となりました。

売上高の分析(4) 仕入販売(機能性樹脂)



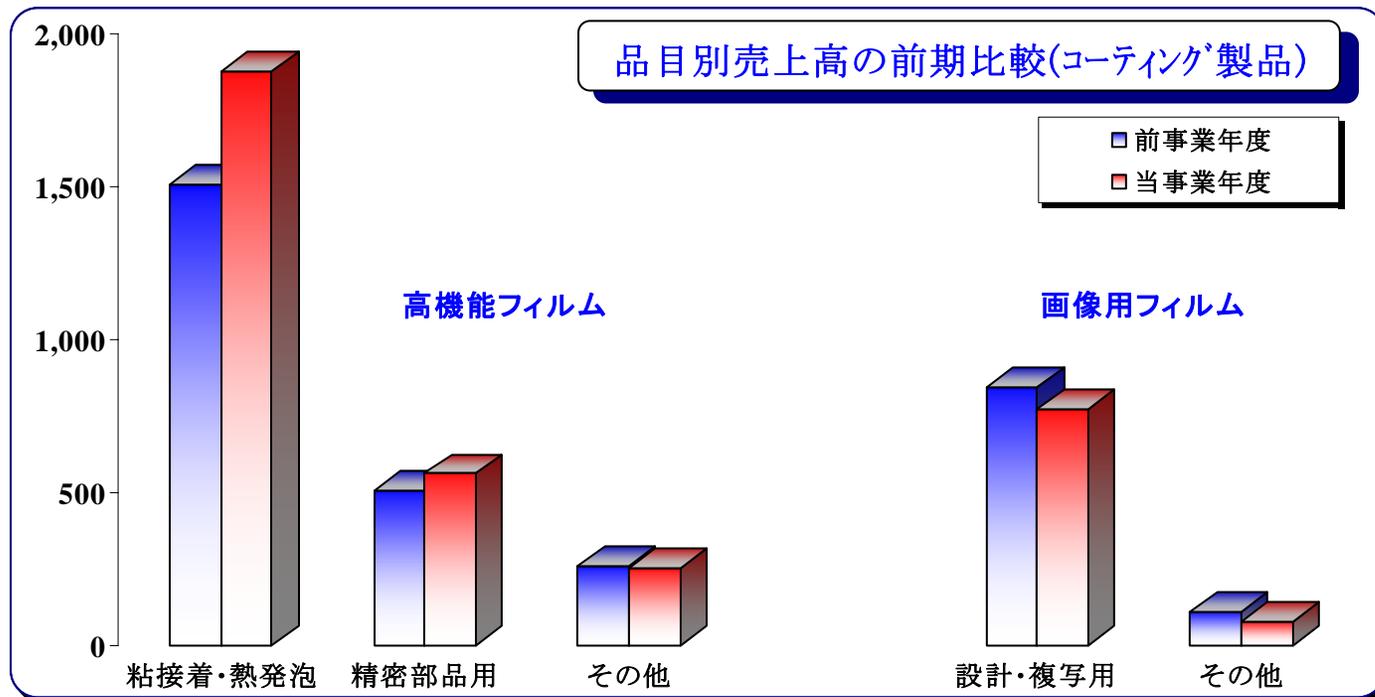
熱硬化性樹脂

薄型テレビを筆頭に家電、OA機器、自動車部品等の急速なるデジタル化の流れを受け、半導体やパッケージ基板が好調に推移し増収となりました。

熱可塑性樹脂

自動車業界の安定生産と高機能対応家電向けのエンブラ材料が新規採用され増収となりました。

売上高の分析(5) 製造販売(コーティング製品)



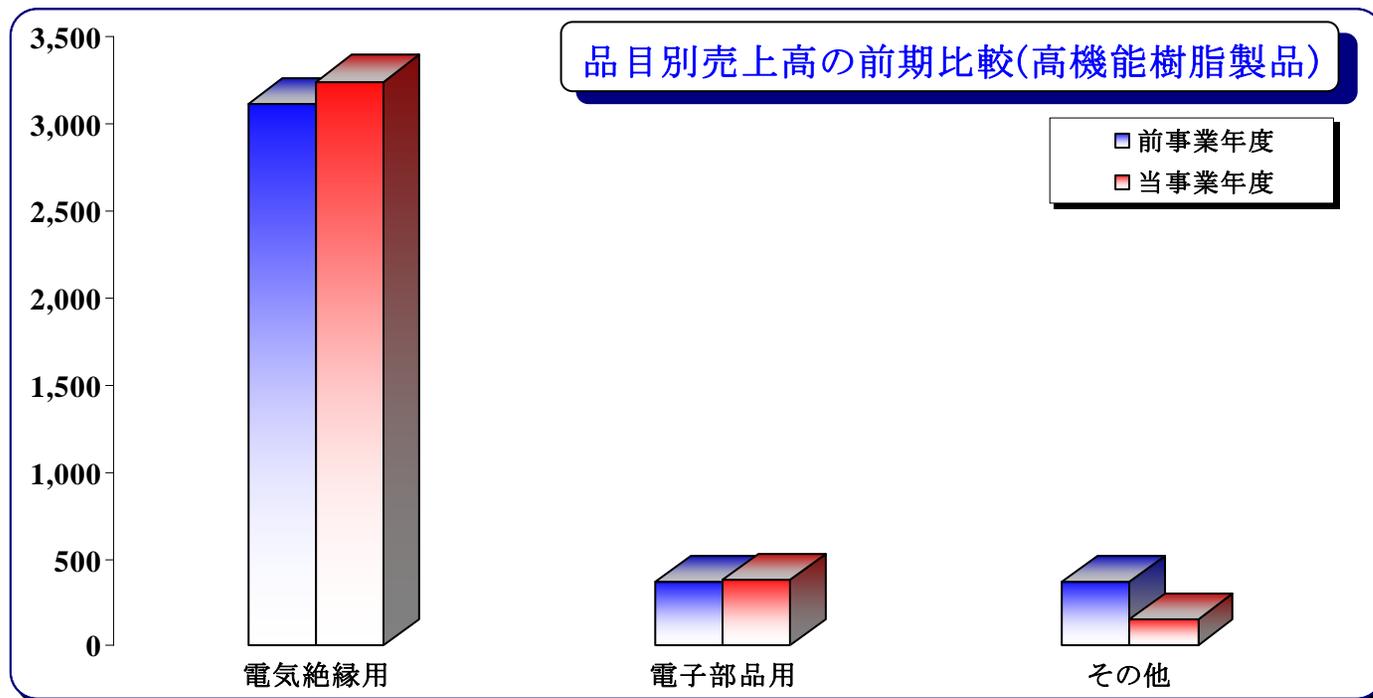
高機能フィルム

フレキシブル回路基板向けが引き続き好調に推移しました。特に台湾、中国の需要が大きく増えた事に加え、積極的な新規市場開発により新しい製品の投入や新規顧客の獲得など市場ニーズに適した製品提供を行った結果、増収となりました。

画像用フィルム

設計・複写業界での公共投資削減等の影響を受け減収となりました。

売上高の分析(6) 製造販売(高性能樹脂製品)



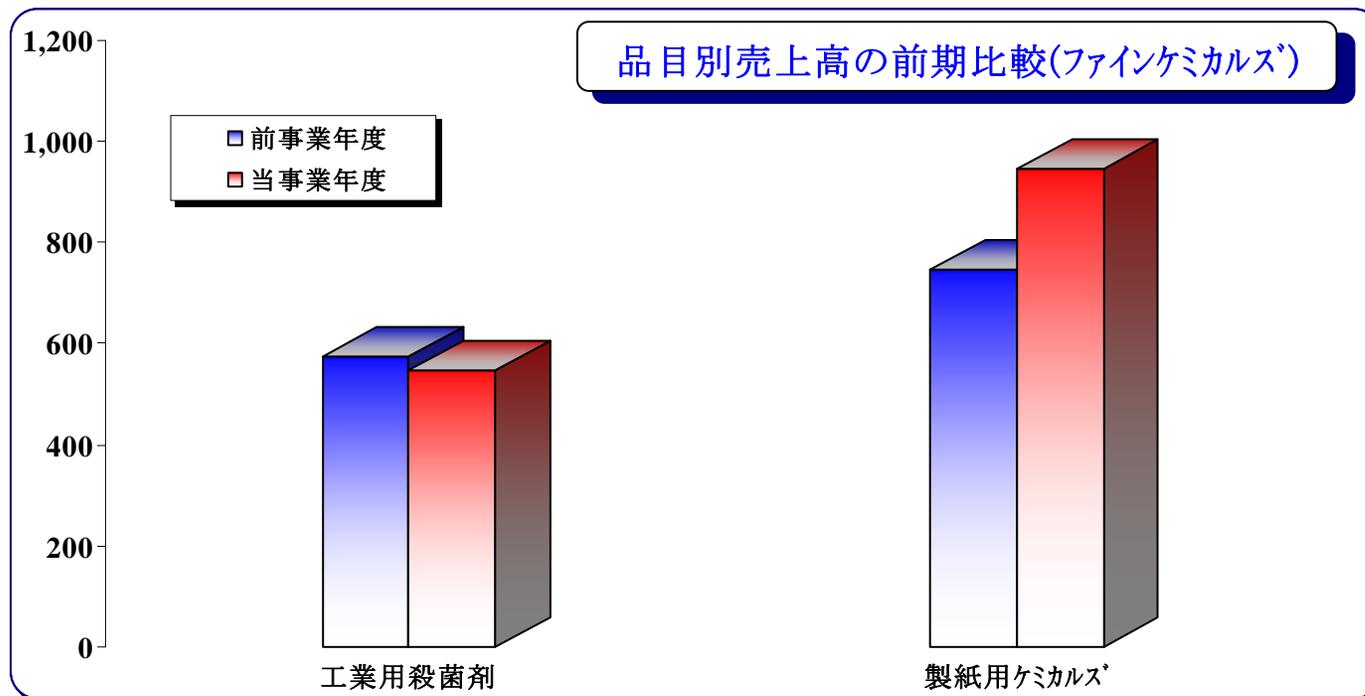
電気絶縁用樹脂

自動車電装品及び電子部品向けの需要が堅調に推移したことに加え、新規採用もあり、若干の増収となりました。

その他

海外市況の価格下落の煽りを受け、大幅な減収となりました。

売上高の分析(7) 製造販売(ファインケミカルズ)



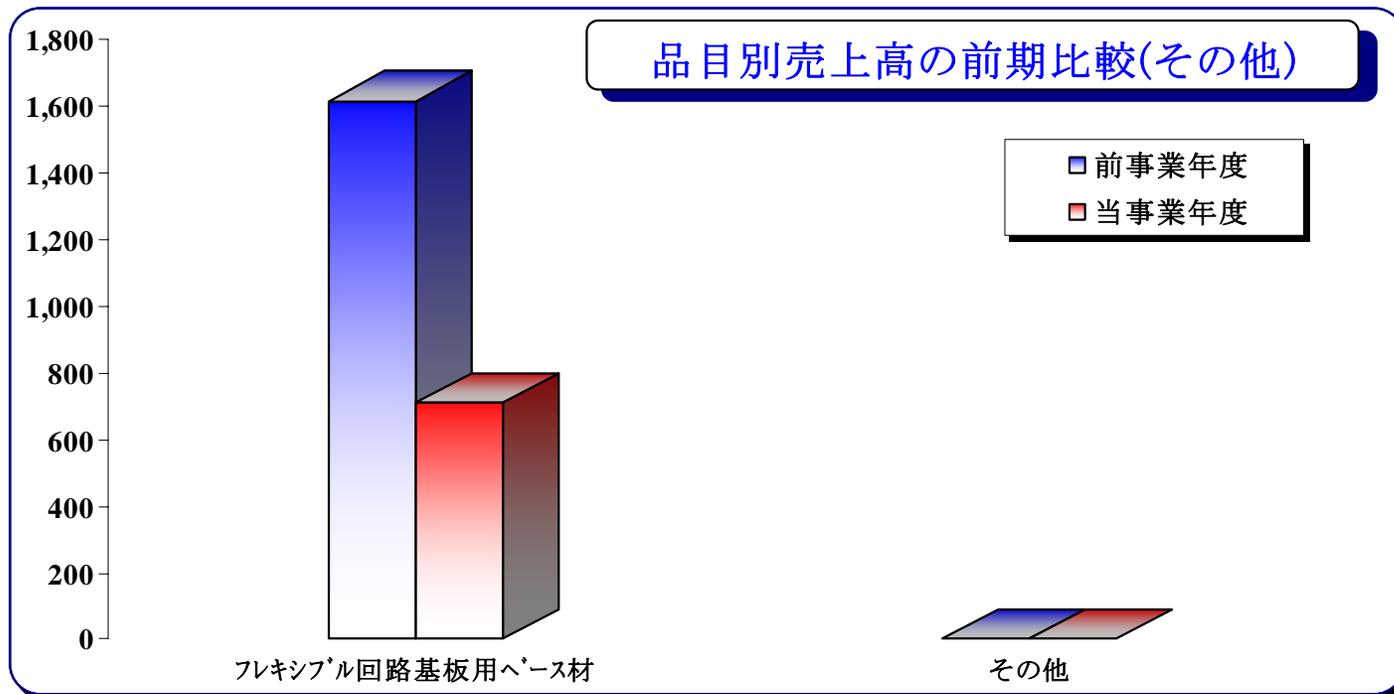
工業用殺菌剤

新規グレードの実績化が遅れたため減収となりました。

製紙用ケミカルズ

新規開発製品の歩留剤・凝結剤を積極的に販売したことにより増収となりました。

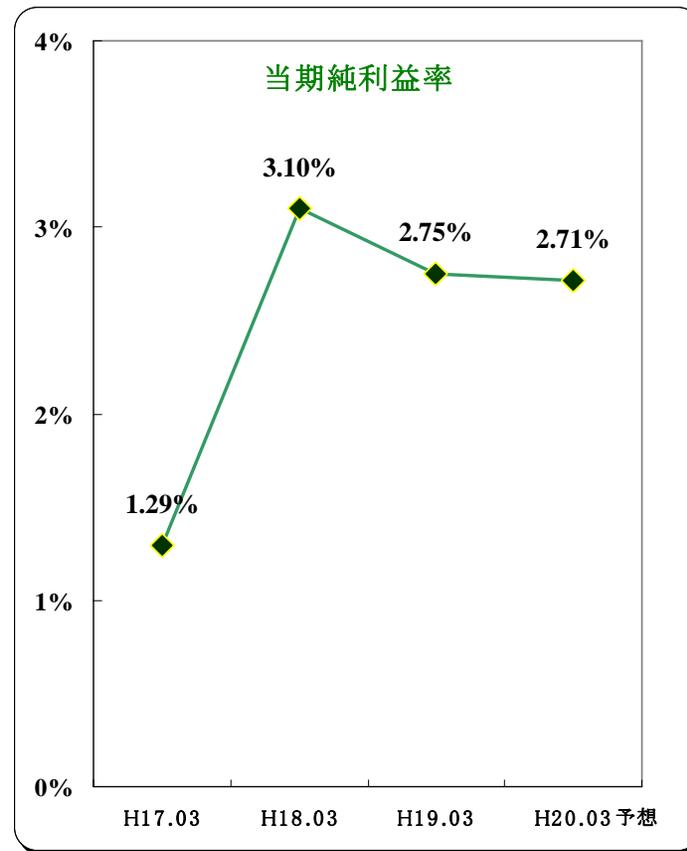
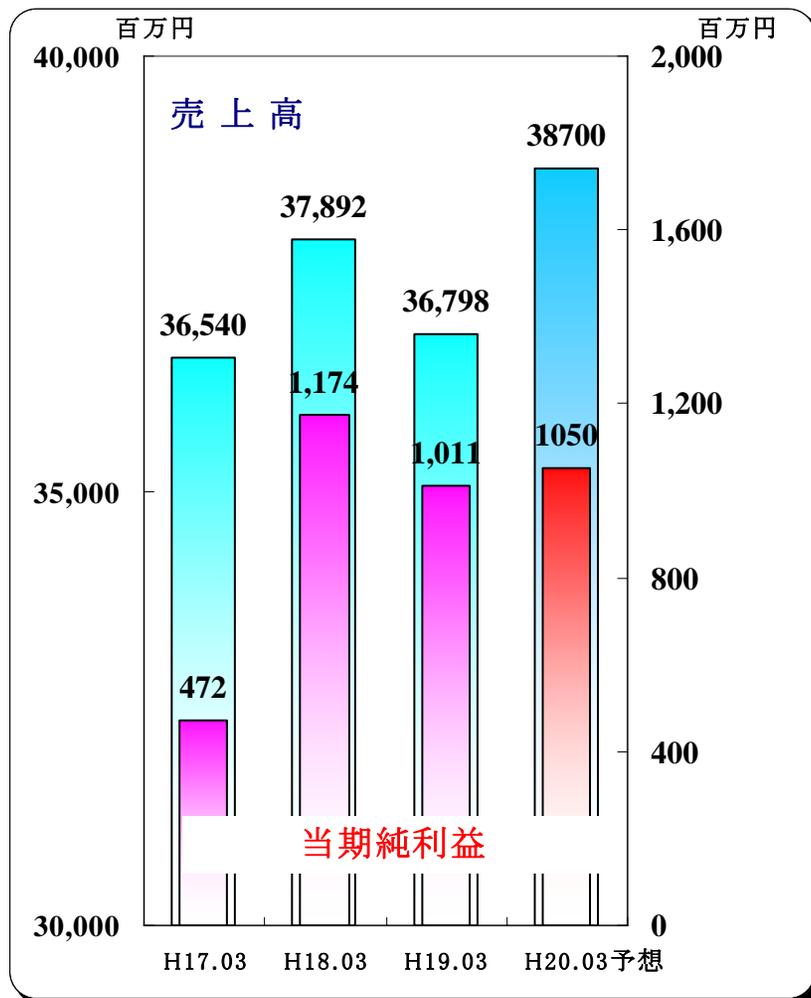
売上高の分析(8) 製造販売(その他)



フレキシブル回路基板用ベース材

海外エンドユーザーの需要減少が顕著となり、また価格競争激化の影響を受け大幅な減収となりました。

当期の業績予想(通期)



	売上高	営業利益	経常利益	当期利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
H20.03 予想	38,700	1,590	1,520	1,050



ソマールは知恵を生かします

